

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	神奈川県
-------	------

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	横浜市立新田中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	5	5	6	2	18	31
生徒数	179	164	229	5	577	

研究の概要

1. 研究主題

「生徒一人ひとりの成長過程に応じた指導方法の改善と教材の開発」

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>1年生・英語 習熟の程度に応じた指導が効果的な教科、学年であるため</p> <p>1年生・数学 学校として、当該教科に関する研究実績があるため</p> <p>1年生・理科 実験の観察等、少人数集団による学習効果を高めるため</p>
--

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 「生徒一人ひとりの成長過程に応じた指導方法の改善と教材の開発」 研究の見通し 英語の「個に応じた指導」の研究実践をもとに、数学・理科においても少人数指導の研究を進めるとともに、他教科に研究成果を提供する。</p> <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 実践研究についてのテーマ設定と研究計画の作成 14年度の実践の成果と課題の明確化 英語を中心とした少人数指導「習熟度別学習」の指導方法・指導体制の工夫改善 英語を中心とした個に応じた指導教材の開発 生徒の「よさ」を生かした評価方法の改善
--------	---

平成 16 年 度	<p>テーマ 「少人数指導による習熟度別学習の研究を通して、基礎・基本の確実な定着を図り、子どものよさや可能性をのばす指導の工夫改善」</p> <p>研究の見通し 英語・数学・理科の「習熟度別学習」の研究実践をもとに、他教科における「個に応じた指導」の工夫改善を図る。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 英語・数学・理科を中心とした「習熟度別学習」に応じた指導の工夫改善 ・ 他教科及び選択教科を視野に入れた、補足的な学習や発展的な学習などの指導方法の工夫 ・ 個に応じた指導と評価の一体化の推進
--------------------	---

(3) 研究推進体制

<p>フロンティア研究推進委員会（特別委員会）</p> <p>委員長 フロンティア・ティーチャー</p> <p>委員 英語科・数学科・理科の教員 計13名（非常勤講師1名を含む）</p>

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

<p>今年度の研究は、来年度以降の「習熟度別学習」に向けて、少人数集団による指導方法の工夫改善、教材の開発等を進めてきた。</p> <p>「少人数指導について」の生徒対象のアンケート結果では、「発言する回数が増えた」「先生に活動をよく見てもらえる」「先生に質問しやすい」という回答が、それぞれ90%を越えていることから、来年度も指導方法の工夫改善、教材の開発等を継続するとともに、一人ひとりの成長過程に応じた「習熟度別学習」を通して、基礎・基本の確実な定着を図る研究に取り組みたい。</p>

2. 今後の課題

<p>今年度は、学年職員配置の影響もあり、英語・数学・理科とも主に1学年を対象に少人数指導を展開した。しかし、より効果的な少人数指導・習熟度別学習を進めるために、来年度は英語は主に2学年、数学は主に3学年で実施する予定である。</p> <p>ただし、学級減による教員数の減少により、学年職員配置や教科担当教員数の影響が予想されるため、学力向上を図るよりよい指導体制を検討し、実施学年を考えていく。</p>
--

学力等把握のための学校としての取組

横浜市診断テスト結果の分析
「少人数指導について」のアンケートの活用 など

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

横浜地区学力向上推進連絡協議会で中間報告し成果を普及。
横浜市教育課程研究委員会で、「習熟度別学習による基礎・基本の定着」について実践を通じた研究を報告し、成果を普及。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上

【指導体制】 少人数指導 T.Tによる指導
 その他

【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無